

大阪青山短大 ○宮沢モリエ 他10名(第1報と同じ)

目的：本報では若年者層の結果を報告すると共に高齢者との比較検討を行った。

方法：第1報と同じである。比較対象者としての若年者層は、高齢者と同じ地域に住む大学生であり、夏期、男性538女性562、冬期、男性525女性588の有効票を得た。

結果：就寝時刻は両期を通して0時以降、起床は7-8時台が多く、特に就寝時刻では高齢者と比べ著しい遅れが認められる。活動について、気分良く動けるのは「午後の方である」としているものが多いのも就寝時刻の影響が大いに考えられる。トイレ回数ではほとんどが「起きない」としているに対し、高齢者はその回数が多い。また、ベッド使用は約半数である。入浴回数は、両者との間に大きな差はないが、夏期においては朝の洗髪のせいか女子学生の約20%が「2回」と多い。入浴時間は冬期、両者とも長くなるが、特に女子学生の増加が顕著である。

住みごころについては、夏期で「暑いがこんなものと思う」が過半数を占め「住みにくい」、「比較的涼しい」が各々約20%を占める。それに対し、高齢者では「住みにくい」が少ない。冬期では、「寒いがこんなもの」が最も多く過半数を占め、次いで「比較的暖かい」と感じている。その点、高齢者は「暖かい」という申告も見られ、暑さ、寒さに対する反応は、若年層の方が忍耐強くないせいか、鋭敏にとらえていると言えよう。自己申告による体力判断は、実態は別にして若者の方が弱い傾向にある。持病、自覚症状については大半は「なし」であるが、自覚症状で男性の腰いた、女性の手足の冷え・腰いた・肩こりや痛みが若干みられ、冬には、女性の場合その割合が多くなる傾向にある。